

川 & 人

Vol. 10
1997

CONTENTS

石狩川名所めぐり

砂川市 北海道子どもの国・砂川ハイウェイオアシス

当別町 スウェーデンヒルズ・伊達記念館・伊達邸別館

3

4

HISTORY

林 元一

5

8

世界河紀行

ネバールの川と人

宮島 滋近

9

12

流域市町村の紹介

東神楽町 すてきな笑顔と花のまち

栗沢町 森と緑／水に恵まれた魅力あるまちづくり

13

14

インタビュール川に生きる

全国水環境交流会ーN北海道

佐伯 昇

15

16

河川事業の紹介

北海道開発局

市区町村からの要望に基づく事業の登録について

北海道開発局石狩川開発建設部

夕張ニューハロダム建設事業

北海道開発局旭川開発建設部

流水保全水路整備事業・桜つつみモデル事業

札幌市

震災に備えた川づくり

17

18

19

20

トピックス

忠別ダムで定礎式を挙行

緑化担当者技術セミナー及びモデル植樹の実施

21

21

石狩川振興財団の活動報告

平成8年度川からのまちづくりセミナー開催

設立5周年記念及び「石狩川の碑」発刊記念行事開催

編集後記

22

22

22







砂川市

公園の中に都市がある
美しいまちを目指して
緑と水が息づくアメニティ・タウン。

砂川市は、北海道のほぼ中央に位置し、母なる川「石狩川」と空知の水脈「空知川」に囲まれた、緑豊かで農工商のバランスがとれた快適環境都市です。
まちづくりの未来像は「しあわせで緑豊かな公園都市」であり、市民一人当たりの都市公園面積も143㎡と日本一を誇っております。
その公園を代表するのが、昭和49年から整備を進めていた「北海道子どもの国」であり、面積約232haの広大な敷地内にキャンプ場、遊歩道、展望台、冒険広場、少年自然の家（宿泊施設）など自然をいかした施設の

ほか、平成元年からは「世界の七不思議」と題したピラミッド、ピサの斜塔、万里の長城、カタコンベ、森の迷宮、ファロス、ストーンヘンジといった遊具設備を配した施設が施工され、同3年に完成しました。
また、同所の完成に併せ隣接してオープンした「ハイウェイオアシス」は、従来の高速道路のイメージを一変させる全国初のUターン方式を採用したサービスエリアとして、年間100万人を超える利用者があり、子どもの国とともに観光の拠点として注目を浴びています。



ピラミッド



レストハウス

ピサの斜塔

所めぐり

砂川ハイウェイオアシス ≈ PICK UP

砂川石山サービスエリアと北海道子どもの国を専用道路で結び、高速道路をUターンできる全国初の機能を備えたレクリエーション施設がハイウェイオアシスです。オアシス館の1階には2つのレストランと土産物などを販売している5つの売店があり、2階は各種イベントや研修、会議など多目的に利用できる少人数から1,000人規模まで収容可能なコンベンションホール「ふるさと活性化プラザ」になっています。





当別町

スウェーデンに一番近いまち当別町。

当別町はスウェーデン王国レクサンド市と昭和62年10月に姉妹都市提携を行い国際交流を深めています。また、昭和59年より日本で唯一の祭り「夏至祭」を交流センターを中心に6月に開催し、夏の楽しい1日を過ごしています。

当別町は隣接する札幌市の都心から25kmに位置し、当別川の流域と石狩平野の一部からなる帯状の肥沃な大地は管内第1位の米の生産量を誇り、さらに花の生産高は全道一です。当別町の西地区には「スウェーデン交流センター」を中心としたスウェーデンヒルズがあり、センターは日本とスウェーデンとの友好親善を促進し、産業・文化等に寄与することを目的に昭和61年に建設され、ガラス及び木工房も併設しスウェーデンの技術者を招へいしています。



スウェーデンヒルズ付近

夏至祭のクライマックス、メイストリッパを踊る

石狩川名

伊達邸別館・伊達記念館

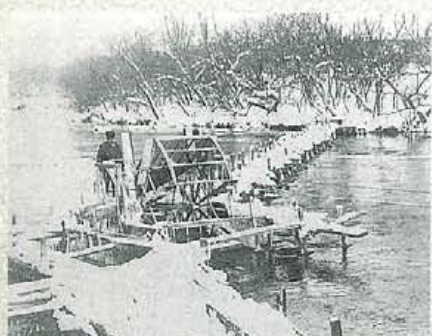
≈ PICK UP

明治4年、仙台藩一門・岩出山の伊達邦直主従によって開拓の礎が入れられた当別町は、今もその歴史を大切に伝えています。伊達邸別館は明治13年、名士来村の際の宿泊や諸会議のための建物です。隣接する伊達記念館には開拓の労苦に感謝し、伊達家主従ゆかりの品々が展示されています。

休館日/月曜日・祝日



千



千歳川西越捕魚船 (明治末?) いわゆるインディアン水車

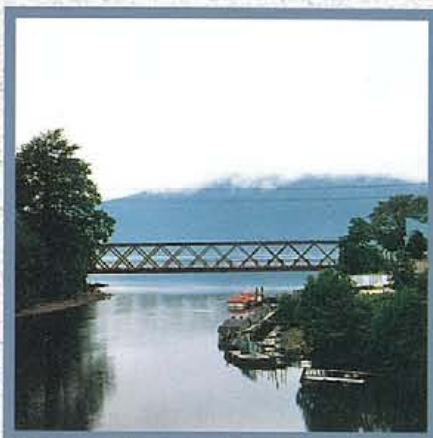
道内屈指の不凍湖、
支笏湖から流れ出る清流・千歳川。
その穏やかな流れは、
ひとたび洪水になると豹変し、
流域に大きな被害を与え続けてきました。
幾度も繰り返される悲劇の歴史の中、
洪水の被害から地域を救うという
大いなる夢を持ち続けた開拓者がいました…

歳



地底から吹き出す内別川源流の湧水

千歳
林元一
千歳の自然保護協会会員



支笏湖から流れ出る千歳川

川

王子製紙第4発電所



凡そ三万二千年前、支笏湖はまだ火山でしたが、その火山が破局的な大噴火を繰り返した後、陥没して出来たのが支笏湖で、千歳川は、その支笏湖から流れでて、火山噴出物が厚く積もった大地を長い年月をかけて削り、深い谷を形成した後、千歳市内を西から東に抜けると北に流れを変え、平坦な農村地帯を江別に向かい、石狩川に合流して終わっています。

源流部は、支笏湖の西にあるフレ岳（1,048m）で、途中美笛川と名を変えて支笏湖に注ぎ、再び支笏湖から流れ出ています。

源流から石狩川迄の流路総延長は108km流域面積1,244kmの一級河川ですが、源流から支笏湖までは、ヒグマの生息する深く険しい山間を流れているため、殆ど人の目に触れることはありません。

支笏湖から江別間69kmも、その40%を占める上流部は国有林の為入林が制限され、更に、王子製紙が上流部の水利権を取得し、深い谷と落差の大きな流れを利用してダムを築き、五つの発電所を完成させてからは、益々川に近寄る事は出来なくなり、千歳川が人々の目に容易に触れることが出来るのは、千歳市内から僅か8km上流の鮭鱒ふ化場より下流部のみです。

千歳川上流部にある支流の紋別川は、国有林の奥深くで生まれ、第四発電所ダムの上流で千歳川に合流し二度も民有地を流れる事なく終わっており、清冽な水は、日本の名水百選に選ばれた内別川の流に劣らないものがあります。



北海道水産試験場 千歳分場 (明治末)

丸木舟を漕ぐアイヌの老翁



国有林の谷を抜けた千歳川は、ふ化場の下流で名水百選に選ばれた内別川を合流して千歳市内に向かっています。

内別川は全長3km程ですが、上流部の至る所から支笏湖の伏流水が、厚い支笏凝灰岩を破って噴出しており、千歳8万市民の水源地となっています。

アイヌの古老が「千歳橋の上から川底に落とした縫い針も見付けることが出来る」と云うほど澄んだ美しい川の流れるも、市内を抜けて農村地帯に入ると、各所から流れ込む農業排水の為透明度を失い、下流地帯では清流千歳川の姿は失われ、茶色に濁った水が殆ど傾斜角を持たない平野を、牛の歩みのような遅い速度で、ゆっくりと流れています。

こうした平坦すぎる地形の中を流れる千歳川は、石狩川の水位に左右され易く、石狩川が増水すると逆流現象をおこし、逆流は江別より40km程上流の根志越橋付近でも見られたようで、根志越の古老達は、若い頃度々川の水が川上に向かって流れるのを見たと言っています。

千歳川は、中下流部の河床勾配が七分の一という、全国でも類を見ない緩やかな河川であり、加えて中流部の標高が僅か5〜6mの所もあるので、一旦洪水になると水引が悪く、洪水が収まるのに他の河川の数倍の日数を要し、被害も大きいという厄介な川でもあります。

こうした水害常習地の汚名を無くし、豊かな農村地帯にしようと真剣に考えた人が居ました。



昭和56年8月の洪水は記録的な被害を与えた



千歳前の長都沼

一番の素封家と云われる迄になりましたが、寂れ果てた村を豊かにしたいと願い、当時は未だ人々に馴染みの少ない飛行機に、村の未来の夢を託し村人を説き、自分の所有山林を飛行場用地として村に寄付し、大正十五年十月、遂に村民一同の手作りの飛行場に一番機の着陸を見、今日の千歳市発展の基礎を造りました。

渡部栄蔵は、早くから千歳川中下流の人達が、度々大きな水害に見舞われていることを憂い、水害を防ぐ方法を研究した結果、水害を防ぐには石狩と勇払の間を運河で結び、千歳川の水を運河に落とすより無いとの結論に達し、その結果として、長都沼や馬追沼周辺の広大な湿地帯が一挙に干拓され、広大な耕地を造ると共に、太平洋と日本海を最短距離で結ばれることで、船舶輸送のコストを大幅に下げ、有事の際には駆逐艦クラスの艦艇が、速やかに両海の間を移動出来るようにと云う壮大な構想を描いていました。

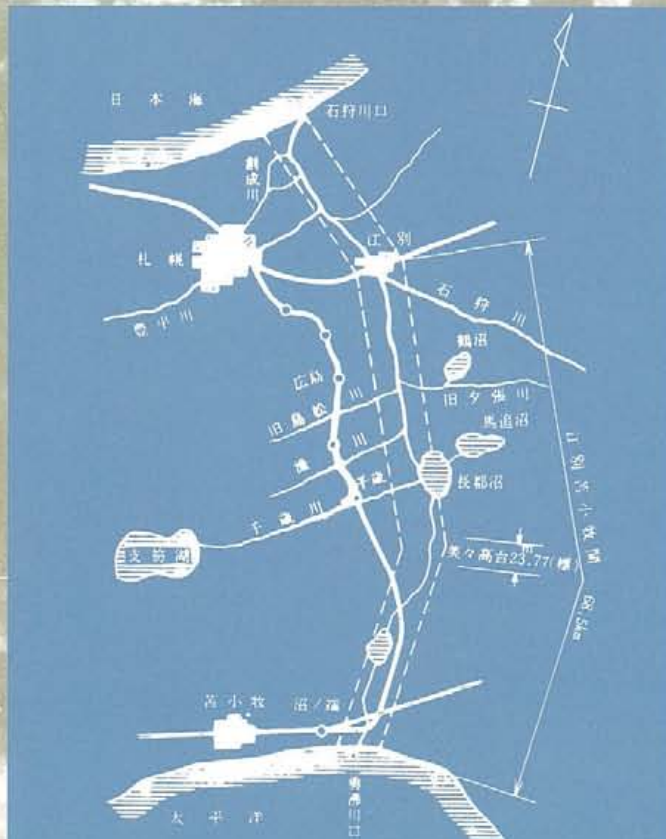
明治二十五年国鉄室蘭線が開通すると、それまでは札幌と室蘭を結ぶ内陸交通の要衝として、人馬の通行が絶えなかつた千歳村は、人々の行き来も途絶え、村は一気に寂れて行きました。

明治三十八年、新潟県佐渡郡から親戚を頼って千歳村に移住した渡部栄蔵は、他の人の数倍も働き小さな雑貨店を振り出しに、林業経営にも力を注ぎ、村

「渡部栄蔵と運河構想」

一方では、飛行場が国に認められ航空隊の設置が決まるまでは政府への請願も続けなければならぬ状況の中で、二つの事業を同時に進める余裕は無かったが、昭和十二年漸く海軍航空隊の設置が決まると、直ちに長年抱いていた構想の実現に向かった。

彼は、この構想を実現させるためには、当時絶大な力を持っていた軍部の力を借りなければ困難だと思い、千歳海軍航空隊の将校達を説いて軍部に働きかけると共に、識者の教えを受け、工事の見積金額やそれによって得る経済効果を、詳細に調べ上げて北海道庁に対しても運河の建設を働きかけました。



戦前石狩運河構想経路図 (昭和14年~16年) 昭和16年7月6日北海タイムス記事 (北海道新聞社) 一挙に道田四千町歩 長都運河開墾完了



この構想は、北方の防備を検討していた軍部に取り上げられ、基礎的な測量等もされましたが、終戦によって軍は崩壊し、更に北海道経済の発展に役立てようとしていた北海道庁も、戦後の急速な道路網の整備と、貨物輸送の主力がトラック輸送に移ったため、何時しか運河建設の計画は立ち消えとなりましたが、それでも尚、渡部栄蔵は運河構想を諦めず、会う人ごとに「千歳川下流の水害を無くするには、千歳川の水を運河に落とし、太平洋に流さなければ駄目だ。今は戦争中と違いガソリンも軽油も豊富だが、地中から掘り上げた石油は何時か不足する。そんな時少ない燃料で、大きな貨物を運べる船舶輸送が主力になる。車は海を走れないが、舟は運河さえあれば内陸の奥深くまで貨物を運ぶことが出来る。」と説いて居ました。

心無い人達に誇大妄想と影口を云われながらも、終生千歳川下流地帯の水害が無くなることを念願し、その為には運河に千歳川の水を流す以外に無いと確信して、会う人毎に説いていた渡部栄蔵は、昭和三十年五月、念願を果たせぬまま急逝しましたが、彼の終生変わらぬ運河に対する情熱は、昭和四十九年、NHKのテレビで「幻の運河」と題して放映され、多くの人に深い感銘を与えました。

千歳市本町三丁目の渡部家の広い庭に、彫刻家田畑一作が作ったブロンズの胸像が設置されており、御影石の台座の正面には、北海道知事町村金吾の書になる「渡部栄蔵翁」の題字が刻まれ、裏面には、

渡部栄蔵翁を讃える

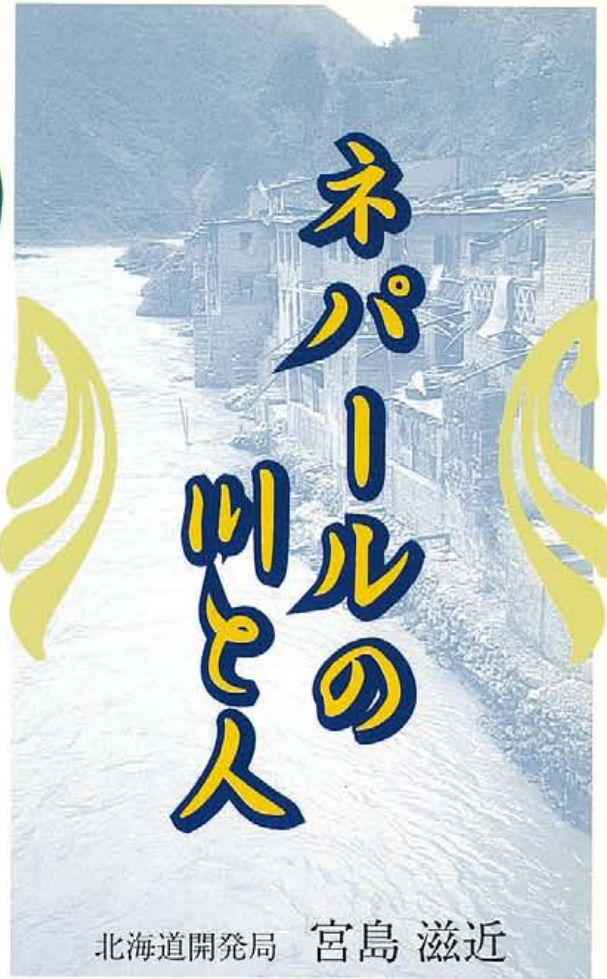
翁の見識は「石狩 苫小牧を結ぶ八十五哩の内陸運河」の開きと千歳空港の設置提唱にみる。翁の功績は千歳の産業支笏湖の観光と開発の現実が実証する。翁は性温厚にしてしかも情熱を包蔵する。万人敬慕の人であり、公徳心篤く私財を投じ千歳市発展に尽くす。翁また深く郷土を研し誌とする。子弟教育に意を用いこれに傾倒す。ここに翁の記念像設置にあたり万感の思いをこめ遺徳を讃える

北海道開発審議会議長 黒沢 西蔵

の碑文が刻まれており、台座の上のブロンズ像は、生前そのままに柔和な中にも堅い意思を秘めて、発展する千歳市を見守るかのようになり、若き村人と共に造り上げた空港の空を見つめています。

文中敬称略





北海道開発局 宮島 滋近

ネパールへの道

まず最初にネパールへどうやって行けるか？
そんなところからお話を進めましょう。

関西新空港からロイヤルネパール航空（RA412便）が昼の12時40分に飛び立ち、上海に一度降りた後、ネパールの首都カトマンズにあるトリバン国際空港に現地時刻18時45分頃に到着します。時差が3時間15分ありますので所要時間は9時間と20分、千歳を朝飛び立ってその日の内に到着します。RAでネパール入りするのであれば、右側の席に陣取ることをおすすめします。途中、カンチエングンガを始め、マカルー、サガルマータ（エベレストの現地名）等名だたる8千メートル級の高山を真横に見ながらカトマンズ盆地へと機首を下げてゆきます。他の航空経路では、香港経由、タイのバンコック経由、

ネパールの川と人

インドのデリーやボンベイ経由が有り、香港経由でもその日の夕刻にネパールに降り立つことができます。途中経由してみたい国や日程に応じて経路を選んで下さい。

トラップを降りて入国審査へ歩いてゆくと赤いレンガ造りの空港ターミナルビルが、すでにネパール情緒をかもし出しています。15メートルと写真2枚を用意しておけば日本より安く入国ビザが発給されるので、高い手数料を取られて日本でビザを取得する必要はありません。入国審査を終え、荷物のテーブルへ下りるところに飛行機に乗るときのように何

ネパールは今

ネパールは今、北へ動くインド亜大陸がユーラシア大陸にぶつかるといわれるその境目にありまじつていてといわれるその境目にあります。北側をチベット高原に接するネパールは世界の屋根ヒマラヤ、特にエベレストで有名な国です。一昨年より関西新空港から直行便でネパールへ行くようになったことも手伝って、多くの日本人がトレッキングや観光を訪れ多くのテレビ番組で山岳民族や亜熱帯の

故か手荷物検査と金属探知器があります。荷物を引き取り税関を過ぎる際、再び荷物検査のX線検査があります。これは、関税を払わずに品物を持ち込むネパールやインド商人、訪れ慣れた外国人を減らし、少しでも税金を取るようにどこかの国が援助したもののようです。いよいよ空港を外に出るとポーターで金を稼ごうとする少年たちやタクシー、ホテルの客引きが群がってくるでしょう。インド程では無いようですが、これも旅の楽しみと感ずることができれば、入国審査前や出口の脇にある銀行でチップ用に10ルピー（1ルピーは約2円）札を含めて両替しておくことをお勧めします。（ホテルでも、必要かもしれないので5千円くらい両替しても良いかもしれません）

群がる人々が面倒な方は両替をして出口の外脇にある空港タクシーのカウンターで宿泊先のホテルを告げ必要な金額（数百ルピー）を払って案内されるタクシーに乗り込みましょ

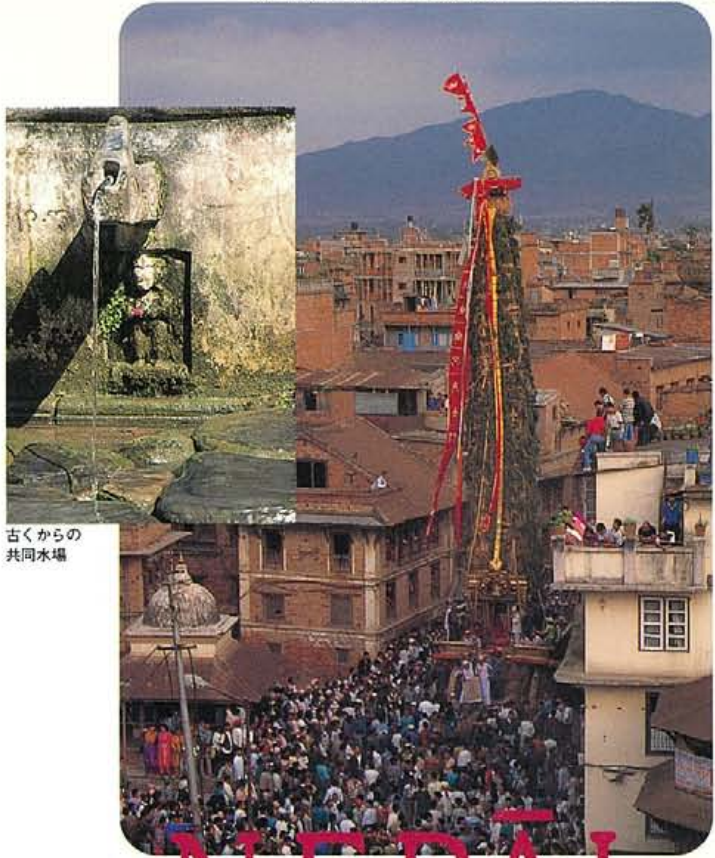
サファリが紹介されています。航空運賃を別にすれば、1週間に10数万円（その内の多くが日本の旅行会社に入るのだが）もあればとてもリッチな旅ができるとの宣伝も少なからず日本人の旅行熱を煽っているかもしれません。そんな身近になったネパールも、この国と接しているの？とか、どんな宗教の国？暑い国なの？、言葉は何語？と聞かれると少し考え込んでしまうのではないのでしょうか。まずは、知っているようで知らないネパールのそんなところから紹介し、この雑誌のタイトル「川と人」のことを少し紹介しましょう。

う。数十年前にタイムスリップしたような懐かしの日本車がホテルにお連れします。空港タクシーは特にチップを払う必要は無いようですが、払うのであっても10ルピー位払っておけば十分でしょう。

私の行った国ではだいたいコーラー一本分位がチップの標準的な相場と感じました。（96年10月現在コーラー1本中身で7ルピー）
これまでのところで何やら少しお分かり頂けたかもしれませんが、ネパールの物価は日本から比べればはるかに安く、大人一人の単純労働が一日で1000〜2000ルピー（2〜4百円）なのです。そして、職を探している人が街にあふれています。安易な観光客からはそれなりの値段をふんだくろうとする商人も多いので納得のゆかない値段で物を買うのは止めた方が賢明です。ただし、むやみな値切りは底辺の労働者に圧迫を与えるのでこれもまた考え物です。あくまでもなっとくのゆく買い物をして下さい。



世界の屋根エベレスト



古くからの
共同水場

NEPĀL

ネパールの位置

ところでヒマラヤのイメージをお持ちの方にとつて、ネパールは冷涼な国のように感じられると思います。実は人口の8割以上は亜熱帯から温帯にかけての平地と山地に住んでいます。首都カトマンドゥの標高は約1400mで、北緯28度の少し南、日本の奄美大島と同じくらいの緯度にあるので、最低気温でも摂氏0度。5〜6月は太陽がほぼ頭の真上になり、日中はとても暑く感じます。標高の低



い平野では40度を越えることも珍しくありません。雨季は6月頃から9月中旬の約3カ月で、年間の降水量の8割がこの時期に降ります。東西約800km、南北約200km、標



村落に見られる新しい共同水道。ヘッドが取れる場所に水源が有る場合に引かれる



手動式ゴンドラで、川を渡る施設も援助や国の事業で行われている



ネパール東部は茶の名産地

高差8kmを越えるこの国は地形が急峻で局地的に非常に強い雨が降っていると考えられます。(時間降雨を観測している雨量計が少なく、平坦地にあるため詳しくは不明)。

国境は北のヒマラヤ山脈に沿ってチベット(中国)につながる以外全てインドと接しています。従って、チベット国境にある唯一の自動車道を経て中国から陸送されるものと動物や人の背に担がれチベットから入るものを除けば、殆どの製品がインドの国境を越えて入ってきます。砂糖や灯油、ガソリン等多くの生活必需品もインドを経ているため、インドとの関係は極めて重要です。かつてネパ

ル政府が中国との関係を緊密にする動きを示したところ、インドが国境封鎖を行い、1週間ほどでネパール政府はインドに詫言ったこともありました。

一方ネパールからインドへ行く物もありません。水は高きから低きへ流れる物。全ての川、川と共に流れる全ての物はインドへ、そしてガンジス川へと流れて行きます。以前の雑誌でも紹介のあったバングラデシュでガンジス川はヒマラヤの裏側から流れてきたブラマプトラ川と合流しベンガル湾に注ぎ出します。

ネパールの人々

「ネパール人」と一口にまとめることが難しいのがネパール人かもしれません。国語はネパール語で、殆どの人が理解できるにもかかわらず、ネパール語を普段使っている民族は国民の約半数と言われているので、強いて言えばネパール国籍の人と言えりるのかもしれませんが。大きく分けるとインド・アリア系とモンゴル系のふたつの民族ですが、これらがさらに細分化された60以上と言われる多民族国家で、あちこちから人々が集まる

ネパールの川

ヒマラヤが上昇を始める前から川はありました。川の流れを遮って山脈が上昇して8千メートルもの高さになったのは驚くべきことですが、その山脈も所々では川の流れにはか



太鼓の横に産る子供の成人式は村を挙げてのお祭り

都市は特に様々な習慣が混じり合って文化を形成していると言えるようです。これは、疫病が流行った際に盆地から移住して地方に文化を開いたことや、統一国王プリエヴィが

なわず、谷間が刻まれています。ですから、チベットからヒマラヤ山脈を越え南北に流れる流れ、山の上昇に遮られ東西に流れる流れが水系を作り、主な4つの水系を作り出しています。コシ川水系、ナラヤニ川水系、カルナリ川水系、マハカリ川水系です。4大水系以外にもカトマンドゥ盆地外縁の山から発する聖なる川バグマティ川も有名な川の一つに数えられます。なぜなら、この川端にあるシバ神を祀るバシユバティナートはヒンドゥ教の聖地の一つ(聖地は膨大な数なのだが)で、インドからも多くの人々もこの寺を訪れます。

寺の正面から見ると大きな金色の牛が寺に向かって座り、お参りをしている格好をしており、裏にはバグマティ川が流れています。この水辺で人々は沐浴をし、髪を洗い、鍋や

1769年にカトマンドゥを征服してから多くの小国を一つの国家としたことによるようです。現在でも、統一国王以外に3人の国王(の末裔?ムスタン国王は日本にも有名)がいるのだと聞いたことがあります。

国の統一後、国語はプリエヴィ国王の国の言葉(王族の言葉は一般に使う言葉と異なるそうです)をネパール語とし、ヒンドゥ教が国教となりました。プリエヴィ国王の系統は元々インド方面から北上した民族と言われており、ネパール語はインドの国語の一つヒンディとほぼ同じ。映画館で見られる映画は殆どがインドから来た映画ですが、人々の娯楽としてにぎわっています。カースト制度は民族や職業を組み合わせる多くに分かれて

食器を洗い、子供たちが水遊びをし、さらに亡骸を火葬にして灰を川に流しています。20年程前までは水が澄みきれいな川だったと言いますが、今は都市の急速な増大によって水量が減り、処理していない排水のおかげで真つ黒になっています。また、トイレは水の有るところで済ませるため、うっかり川に近づくと踏みたくない落とし物を踏むことになり

ます。都市では水道が配管されている家も有りますが、1日の給水時間は数時間、雨季前の水が少ない時期には断水も頻繁です。個別の家庭に水道を引いている場合は地下の水槽に一度水を貯めるのでまだましですが、街のあちこちにある共同水道は条件が悪く、カトマンドゥでは瓶一杯の水を汲むために長蛇の列で待っているのも毎年恒例になりました。地方

いるようです。しかし、1991年の民主化復活の後、国教やカースト制度は原則的に廃止になったとのことです。

ところで、ネパール語の文法は日本語の文法と同じく主語の後に目的語が有り、最後に動詞が時制の語尾変化を伴って置かれます。例えば「あなた・の・名前は・なに・か」をネパール語にすると「タバイン・コ・ナーム・ケ・ホ」になります。こんなこともネパールを身近に感じる理由の一つかもしれません。

も公共水道の配水が進んできているものの、片道1時間以上の山道を朝晩、谷に水汲みに行く地域も多く、日本からの青年海外協力隊員5人も水道敷設に協力しています。

護岸が敷設されている河岸はまだ多くありません。橋梁や堰周辺、災害復旧で援助を得た箇所くらいです。この場所は洗濯物に丁度良い場所になっている風景をよく見かけます。特に暖かい所では、着ている服をまず洗い、これを干している間に体と家族の洗濯をすると帰る頃に着ていた服が乾いているといった具合になっているようです。

標高の高い山の方ではちよつと習慣が異なり、水が豊富な時期は別としてチベットの文化圏では食事関係以外に殆ど水を使わないこと。水が貴重で、気温も低い地域性からできた習慣だと考えられます。



バザールには香辛料をはじめ各種の生活用品が売られる

中華人民共和国



上流から流出した土砂は下流で大きく川を広げ、耕作地を削り取った1993年洪水跡

護岸が有る場所での洗濯と水浴風景

ネパールから

歴史上日本人で初めてネパールへ足を踏み入れた人は河口慧海（えかい）という名の僧侶でインド、ネパールを経由しながらチベット語を学びチベットの首都ラサでチベット仏教を学ぶための入国でした。1899年1月のことだったということですから、約百年前のこととなります。当時滞在したという寺がムスタン郡のツクチェ村に残っています。当



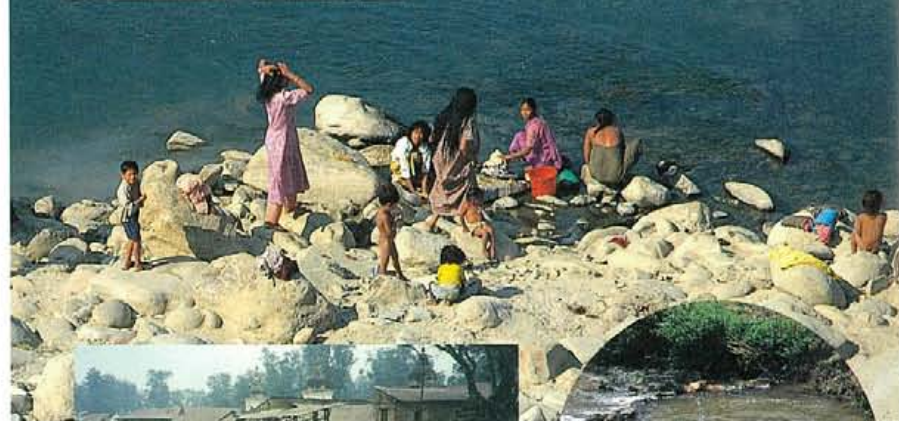
河口慧海が滞在したトクチェの村、中央奥の川近くの寺に泊まった



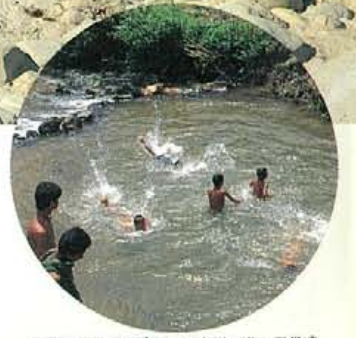
慧海が泊まった寺へ続くマニ車の街道

時は広く河畔に林が広がっていたとありますが、カリガンダキ川の浸食で川が寺のすぐそばまで広がってきています。この問題を少しでも解消すべく、ネパール治水砂防技術センターの提案で小規模無償資金協力を開始することにしました。

河口慧海の交流は公式な国交とは異なるものの時の国王とも接見し、古くからつきあいのあるアジアで唯一独立を守っている国でありますので、そんな時期にネパールを訪れてみてはいかがでしょうか？



バシュパティナート裏では毎日茶屋が行われ、輪廻転生のため、川へ流される

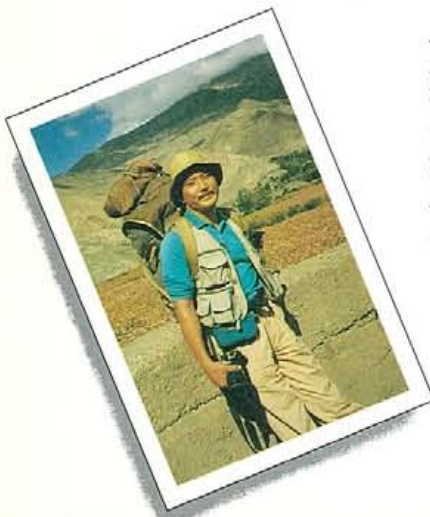


水量が増えた雨季始めの小川で遊ぶ子供達

多すぎる水

いずこにおいても、水は不足無く、程々に有るのが良いのでしょうか。雨季と乾季が際立ったこの国では毎年多数の災害が発生しています。土石流、地すべり、洪水の氾濫や浸食が毎年多くのインフラや生活空間に被害を与えています。だからこそ私も当地で生活する機会を与えられた訳ですが、国民一人当たりの年間GDPが200米ドル弱のこの国にとって、災害はたやすく復旧できる現象ではありません。安い人件費と現地で入手可能な材料を使った防災工事を川の状況に応じて考え、実施することが重要ですが、貧困故に貧困から脱し得ない途上国の現状には先の長い道なのです。標高差千メートルにも及ぶ大斜面や、上昇が始まってから数百万年の山地、厳しい地形条件、人口の急激な増加など取り組むべき課題が山積みになっています。

一方、そんな生活条件だからこそ、多くの神々と共に祝うべきを祝い、川の流れと同じように延々と続く輪廻の中に安らぎを見いだすのかもしれない。



HIGASIKAGURA

東神楽町



36ホールのパークゴルフ場



東神楽町の全景

すてきな笑顔と花のまち



石狩川水系の忠別川や、その支流となるボン川、志比内川など幾筋もの川が静かな清流を見せている東神楽町は、古くから農業を基幹産業として発展を続けてきました。

明治27年、帝室御料地の貸し下げが行われ、北国の厳しい気象条件のもとに開拓者たちは、うっそうと茂る原始林や見渡すかぎりの原野、道さえない未開の土地へと進み、大木を切り倒すと同時に土を耕し、アワやダイズ、ハダカムギなどさまざまな穀物を植えてきました。

開拓に挑んだ先人たちの不屈の精神とたゆ

まぬ努力は、度重なる水害や大凶作を克服し、米は育たないと言われていた上川地方に新たな可能性を見だし、明治45年には、忠別川導水門から全村に水脈を引く大規模なかんがい施設を作るなど、今日の本町発展の礎石を築き上げました。

平成5年に開基100年を迎えた本町は、先人たちが残した貴重な財産と緑豊かな大地、そして道北の空の玄関である旭川空港が所在するなどの立地特性を十分に生かした活力あるまちづくりを進め、「すてきな笑顔と花のまち」として発展を続けています。

長年にわたり培ってきた「花のまち」という優しく美しいイメージと、自然豊かな安らぎのある環境づくりをさらに大きく展開する事業の一環として、昨年6月に「桜づつみモデル事業」の認定も受けました。

東神楽橋上流の左岸約600mの事業予定地は、三か年計画で築堤工事が行われ、エゾヤマザクラなどを植える予定です。

また、桜づつみ事業予定地には、堤防に面した河川敷に36ホールのパークゴルフ場や堤防を利用した全長15kmのサイクリングロードなどが整備されており、訪れる人たちは勇壮な大雪山や忠別川の清流、カラマツ林などバリエーションに富んだロケーションの中、それぞれの楽しみ方で自然を満喫しています。

良好な住環境、豊かな教育・文化・社会環境、たくましい産業発展を第六次総合計画の基軸に据えて、都市近郊型として潤いのある街づくりを推進するとともに、ふるさとを愛する心を育みながら、東神楽二世紀へ向けてさまざまな事業に取り組んでいます。

これからも本町のシンボルリバーである忠別川の自然環境と共生し、学び、そして喜びを分かち合いながら、終わりのなき歴史の一説を書き記していきたいと思えます。

KURISAWA 栗沢町

森と緑・水に恵まれた 魅力あるまちづくり



栗沢二世紀の町づくりは、森と緑、水に恵まれた自然環境をいかして「人が来てくれる魅力ある町づくり」を更に推進してまいります。

（自然と共生する町づくり）

栗沢町は、石狩平野の東端にあつて、道都札幌市より40km、千歳空港へも40kmの位置にあり、東部は豊かな森林資源に恵まれ、西部は石狩川支流の豊富な水に恵まれた稲作地帯として発展してきました。しかし、稲作地帯の大部分は、大雨により石狩川の水が、幌向川から清真布川へと逆流して、毎年のように水害があり、開拓の歴史は真に水害との闘いでありました。町として長年にわたり水害のない町づくりが大きな課題でありましたが、北海道開発局の治水事業として、清真布川や夕張川などの河川の大規模な改修や築堤の高上げ、緊急内水排除事業などに多額の費用が投入され、併せて、農業経営の近代化を目指した農業基盤整備事業が逐次実施されたことにより、良質米の主産地となり、安定した農業地帯として発展しています。

（住民参加の河川清掃）

本町市街地区を縦断する最上川の堤防や河床の清掃を毎年6月上旬、地域住民と、職員が一体となって実施し、河川の景観や環境を良好に保全するため、住民参加によるクリーン作戦を展開しています。また、最上川の一部を親水公園化し、休憩施設やモニメント、花だん等を配置、水と緑に親しむ町民の憩い場となっております。

本町は、公・民有林を合わせ約9,500haの林野面積を有し、豊かな森林地帯を形成しており、川上の大切な資源として、また、大きな財産を守り育てています。森林は、国土の保全や水資源のかん養をはじめ、森林浴・パードウオッチングなど、森が生み出す価値や文化の偉大さを再認識し、緑の森に恵まれた豊かな故郷を確かな姿で次の世代に引き継いでいかなければならないと考えています。

平成2年7月誕生した「グリーン少年団」は、小学3年生から6年生までの70名余りが参加し、緑と森林そして自然とふれあう子どもたちの集団です。時には親も参加し、年間を通じたバラエティー豊かなプログラムにより自然や森、水の大切さを勉強し、交流を深めています。グリーン少年団の活動の拠点は、市街地に近接する「ふるさとの森」です。ここには、冒険ランドやキャンプ場のほか森林浴が楽しめる遊歩道が整備されています。ふるさとの森に隣接する総合運動公園には、野球場、パークゴルフ場、テニスコート、海洋センターのほか、民営ゴルフ場もあり、森の中のスポーツ・リフレッシュゾーンを形成しています。また、総合文化複合施設「来夢21」（図書館、資料館、児童館）も整備され、更にデイサービスを中心とした在宅福祉の総合援護施設「保健福祉センター」を平成11年4月

総合文化複合施設「来夢21」



オープンの子定で、保健・福祉・医療一体ゾーンの完成を目指しています。
住む人の幸せを築く町づくりとともに、新たな職住環境の開発整備のため、道央栗沢工業団地の造成や住宅団地造成事業にも着手しております。



栗沢町スポーツ公園

最上川の清掃





住民が主体の 全国水環境交流会 I N 北海道

「私は恵庭市の茂漁川の近くで生まれ育ったのですが、昔の川はひじょうにきれいでした。なぜこんなに汚れてしまったんだろう・・・それが全ての始まりです。」

川は文化風土の代名詞に使われるくらい市民生活に直結していますし、水辺の環境や景観は市民共有の財産ですが、水の高度利用によって昭和30年代後半頃から、水質も含めて水辺の環境が大変に悪くなりましたね。私は水環境の専門家ではありませんが、コンクリートが専門のため、現在の河川環境については少なからず責任を感じています。土木というのは自然と深く関わっていて、特にコンクリートは三面張りなど、川の悪役といわれています。そういった意味で河川の問題は私の研究の範疇なんです。私が昔遊んだ川に近付くためにも研究を進め、行政に提案していきたい。そのためには住民の声が必要です。こういう団体が住民と一緒に行政に働きかける。そうしないとこれからの環境問題は発展していかないと考えています。

また専門家がかりが活動しているとすれば、専門でない人達が入りづらいでしょうし、一人でも多くの市民に関わって戴けなければ改善できない問題でもあるからです」。

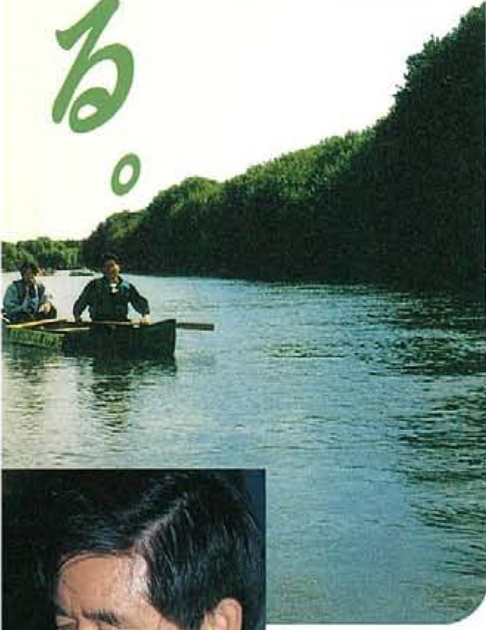


水環境を良くするという 共通の目標のために

「全国水環境交流会の目的達成のためには、まず、人と情報のネットワークの形成があります。水は動植物を育み、産業や文化などの人間生活を支える重要な要素であり、水循環の過程が細分されていることがあり、今日的な水質悪化を招いたとも言えますので、総合的かつ一元的に捕らえることが重要になってきます。ネットワークの形成にあたっては、地域活動を重視して、地域からの積み上げを大切にしなければなりませんし、また、郷土を愛するがゆえに積極的な環境保全活動を行っている市民、民間企業、行政関係者、大学や研究者などが、立場を越えて複合的な交流を行うことにより、様々な問題解決の糸口が見えてくると考えています。」

二つには合意形成のあり方があります。地域には地域固有の問題と課題があり、人々の価値観も異なります。従って賛成、反対といった事象も発生してきますが、環境問題の解決に向けて大切なことは、水環境を良くするという共通の目標に向けての合意形成です。また、河川、湖沼、海、雨水、飲料水、地下水、用排水、ダム、森林などの水循環や動植物の生育環境、流域づくり、健康、福祉など広範囲にとらえることではじめて開発か保全かといったような個別の対立から脱却を図ることが可能になると考えており、そうしたものの議論できる場を設定していくことにしています。」

シリーズ③ 川に生きる。



物の生育環境、流域づくり、健康、福祉など広範囲にとらえることではじめて開発か保全かといったような個別の対立から脱却を図ることが可能になると考えており、そうしたものの議論できる場を設定していくことにしています。」

全国水環境交流会では、年に一回は必ず全国大会を開催しており、地域の活動報告や課題、それを解決するための研究や成果などの情報交換が行われています。そこで得たノウハウを地域にフィードバックして、それを日頃の活動に活かすようにしています。I N 北海道も年に1回はシンポジウムを開催しています。92年には発足総会を兼ね、洪水と共生する地域のあり方を探っています。93年は追分町で襟裳岬の緑化や常呂町の漁業協同組合婦人部の植林活動など、森林と漁場環境の関連を研究したり、また94年は八雲町で河川環境と流域保全のあり方を探っています。昨年はニセコ町で流域連携のあり方を話し合いましたが、これを契機として「しりべつリバーネット」というNPOができています。

またEポータル交流事業の実行委員会に加盟させて戴いており、一昨年は千歳川、昨年は滝川市で、企画から運営までを一緒にやりました。この他にも静内町で「古川清流復活シンポジウム」の支援、東北の北上川のリバー・スクールの視察や、「第3次河川審議会答申」の勉強会など、自分たちの研修も含めて色々な活動を行っています」。



佐伯 昇さん

全国水環境交流会 I N 北海道 運営委員長
北海道大学工学部 土木工学科 教授 工学博士

流路延長約268km、流域市町村48。大河石狩川の長い長い道程で開わり合う人々。そういった人々の人生もまた石狩川を物語る。

INTERVIEW

阪神・淡路大震災を契機に、日本でも定着しつつあるボランティア。その動きはもつと身近な問題、将来を見据えた問題へと広がり、北海道でも活発化しつつあります。佐伯さんは、北海道大学で教鞭をとりつつ、水環境の改善のために、幅広く活動しているNPO、全国水環境交流会IN北海道の運営委員長でもあります。



上流・下流の境をなくし、流域全体で交流し、川と親しむEポート交流事業

「上流で水を汚せば下流が困りますし、汚染された魚介類や農産物は上流の人も口にしますからお互いに困るわけで、このような問題を解決するために、地域交流センターの方で、上流と下流の人たちが交流する仕組みづくりや道具（船）なんかを検討している時にEポート交流事業が考案されました。交流エクスチェンジのEをつけてEポートとしたのですが、水環境を改善するためにはエコロジィや環境（エンプロウメント）など、色々な課題に対応する必要がありますので、今はそういうものすべてを含めてEポートと称しますし、開催される地域の課題に応じたニュアンスで使い分けてくれば良いと思います。」



水道が普及して、昔のように川に行く必要が失せたことも川が汚れる一因になったという反省から、一人でも多くの方が川に親しみ、遊ぶ道具としてEポートが活用されればと考えています。また水辺の環境教育も益々重要になって来るので、本年から児童を対象にしたリバースクールを検討しており、そこで利用すればエデュケーション（教育）のニュアンスも加わります。

このポートはアルミ製のフレームに特殊な布を覆う組み立て式の10人乗りで軽量ですが

ら、多くの方に利用してもらいたいですね。道外の例では参加した身障者からとても評判が良かったそうです。当会にもボランティアスタッフがたくさんいるので、身障者の方もぜひ参加して欲しいと思っています。

本年は尻別川で開催が予定されています。また、「全国ダム・流域交流フェスティバル」が南富良野町の金山ダムで開催が決まり、そこでもEポート競技が行われる予定です。

千歳川ではEポート交流事業を行ったのを契機に、その時に参加した流域の人たちが鮭の遡上時期直前にゴムボートやカヌーに乗ってゴミ拾いを行っています。滝川市でもEポート交流事業実行委員会のメンバーだった青年会議所が、河川環境の改善に向けて検討をはじめたと聞いています。少しでも川に行く人が増えて、川の水は汚い」とか関心を持って戴ければ、それなりの効果があるといえるのではないのでしょうか。」

「研究・交流・教育」を一体化した取り組み

「わが国の高度経済成長は、水資源があったから成り遂げられたとも言えますが、その過程で失ったものも多く、気づけばあらゆる生命の源である水辺があまりにもみすばらしくなっていた有様です。しかし、高度経済成長の恩恵を受けたことも事実ですから、水や育む森林をはじめ、河川や湖沼、海などに対して健康回復をしなければならぬと考えています。」

私には昔の川のイメージが鮮明に残っています。その河川に近付くために、個人としては今までの研究を進め、IN北海道では流域の交流をさらに働き掛け、子供達への教育に力を入れる。息の長い活動ですが、これらを一体化していきたいと考えています。そして、私たちの住む北海道が世界中で一番美しく健康であり、誰もが住みたくなるようにすることが私の夢です。」

全国水環境交流会IN北海道

地域交流センターの呼び掛けで92年、全国水環境交流会発足。同年に北海道でも南幌町で発足、水環境に関わるまたは関心のある人達の交流をとおしてノウハウや情報を共有、水環境の保全と創造に資することを目的としたNPO(非営利団体)。事務局は100%ボランティアで会費なし。会員という形式はとらず全員が運営委員で現在70数名が登録、会の運営に誰もが意見を言え、決定する仕組み。

問い合わせ先/TEL(0123)32-3863 恵庭市漁町277番地 荒岡 岩雄



市区町村からの要望に基づき 事業の登録について

建設省河川局では、地域の個性やニーズに対応した治水事業の一層の展開を図るため、地域との結びつきの強い事業であって、その実現に向けて市区町村の役割が大きい事業について、市区町村から要望を受け、条件の整ったものの中から実施していく制度を設けました。

事業実施に向けて、昨年12月までに各市区町村からの要望を受け付け、1月下旬に登録の通知を行ったところです。

平成9年4月以降に、登録されたものの中から指定及び事業化を行う予定です。

また、6月以降に、平成10年度の要望受付を行う予定です。

対象事業の内容と仕組みは、建設省河川局から全国市町村に配布された「事業の内容と仕組み(案)」(平成8年9月)に掲載されています。

なお、現在(平成9年1月末)までの北海道内の各事業のエントリー状況は別表のとおりとなっています。

北海道
開発局

[対象事業一覧]

事業名	北海道内エントリー状況 (H8.1末現在)
水と緑のネットワーク	1
水辺プラザ	5
水辺の乗校プロジェクト	12
河川・溪流再生	0
総合的な冠水被害軽減対策	3
河畔林の整備	0
ふるさとの川整備事業	1
桜づつみモデル事業	4
河川防災ステーション	0
ラブリバー制度	1
地域に開かれたダム	0
都市山麓グリーンベルト	2
いきいき・海の子・浜づくり	0

水と緑のネットワーク

水路の新設、緑道の整備



都市下水路の利用(水辺の散歩道)



歩道のせせらぎ



水辺を活かした公園の整備



水辺の緑の演出



歴史的な水辺景観の保全



夕張シューパロダム建設事業

道央に連なる夕張山地、この主峰芦別岳、夕張岳を發し、江別市街東方で石狩川と合流する夕張川は、夕張市、由仁町、栗山町、栗沢町、長沼町、南幌町、岩見沢市、江別市の3市5町の社会経済の基盤を成す河川として流域を育んできています。

この夕張川の上流に夕張山地の雪解け水を溜め、下流石狩及び空知支庁にまたがる穀倉地帯に、潤いの水を供給して大夕張ダムが昭和37年に完成しています。

夕張シューパロダムは、この大夕張ダムの下流約130m付近に建設するダムであり、夕張川、千歳川にまたがる沿川市町村に対して治水、利水に寄与するものです。

夕張シューパロダム建設事業は、この大夕張ダムの役割を継続することと、両水系にわたる効率的な利水を行うことから、河川管理者（建設省）、土地改良事業者（農林水産省）、水道事業者（石狩東部広域水道企業団）発電事業者（北海道企業局）の4者からなる共同事業方式を採用し、北海道開発局石狩川開発建設部が施工主体となっています。

平成3年度に実施計画調査に着手して以来、6年目となりましたが、平成7年度には建設に着手し、環境影響評価に関する諸手続きを終え、事業4者によるダム建設に関する基本協定が締結されています。平成8年度には水没関係者約250世帯との一般損失補償基準が関係者の事業に対する深いご理解により合意に達し、現在世帯毎の補償交渉が進められているところです。

ダムは高さ107mの重力式コンクリートダムですが、特徴的なのは貯水容量と湛水面

積が大きく、湛水面積15km²は、完成すると国内のダムの中で2番目の大きさになる予定です。

ダム所在地の夕張市の歴史は、石炭産業によって始まりましたが、現在では、炭鉱の街から観光の街へと移りつつあり、夕張シューパロダムは観光開発の核としても期待されているところです。

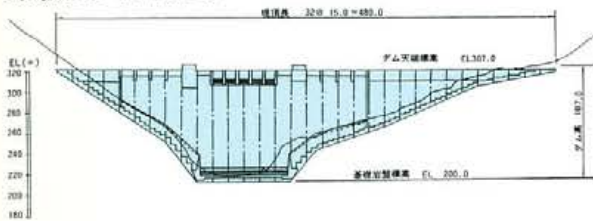
北海道開発局
石狩川開発建設部



完成予想写真

〔下流面図〕

＜夕張シューパロダム＞

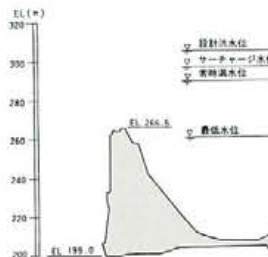


＜大夕張ダム＞

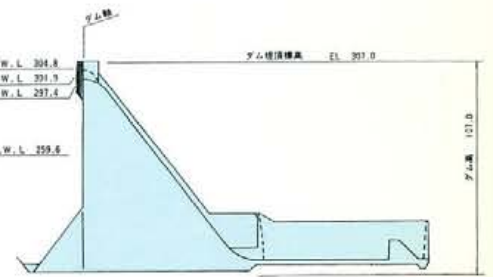


〔標準断面図〕

＜大夕張ダム＞



＜夕張シューパロダム＞



〔大夕張ダムとの比較〕

	目的	堤高	堤頂長	堤体積	集水面積	湛水面積	総貯水容量	有効貯水容量	発電最大出力
夕張シューパロダム	洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい、水道、発電	107.0m	480.0m	880,000m ³	433.0km ²	15.1km ²	433,000千m ³	373,000千m ³	27,100kw
大夕張ダム	かんがい、発電	67.5m	251.7m	200,572m ³	433.0km ²	4.75km ²	87,205千m ³	80,500千m ³	14,700kw

流水保全水路整備事業

牛朱別川は本来、そのロケーションから旭川市街部のオアシスとなるべき都市河川ですが、現状では水質汚濁が著しいために、牛朱別川の親水機能が全く損なわれていくのみならず、石狩川の旭橋周辺の高水敷利用等にも悪影響を及ぼしており、市民の牛朱別川に対する様々なニーズには非常に強いものがあります。このため、流水保全水路整備事業（S62）は、健全な河川環境の確保、とりわけ都市部における河川水質の改善を目的としています。本事業は、都市排水による汚濁が著しい牛朱別川の水質を改善するために、牛朱別川に流入する都市排水をバイパスし、忠別川が石狩川に合流して河川の流量が十分に大きくなった地点において、都市排水を放流することにより、牛朱別川の水質を飛躍的に改善するものです。

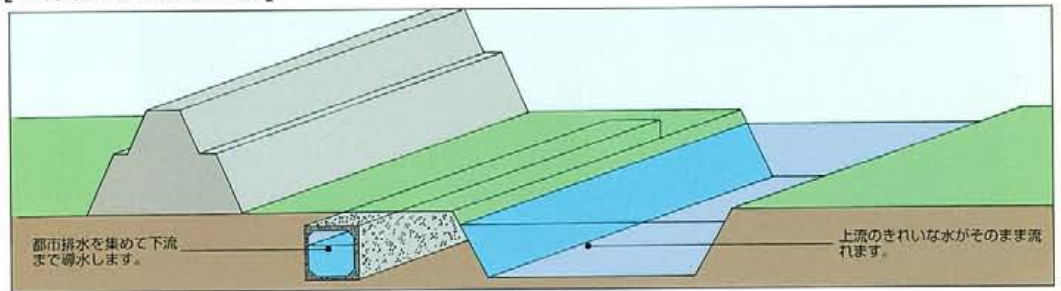
桜つつみモデル事業

水辺は貴重な水と緑の空間であり、河川の清冽な流水と緑の堤防は地域社会の憩いの場等として重要な役割を果たしてきました。しかし、沿川地域の市街化等に伴い、緑が減少しつつあることから、近年良好な水辺空間の整備の一環として、堤防及びその周辺の緑化に対する要請には非常に強いものがあります。

桜つつみは、桜の植樹等により良好な水辺空間の形成を図り、併せて堤防の強化及び土砂の備蓄等水防活動に必要な機能の整備のために設置する堤防側帯です。

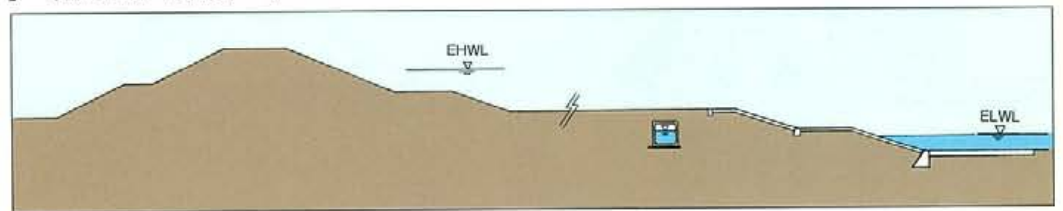
北海道開発局
旭川開発建設部

[流水保全水路整備事業]



河川の流水は、水系内における取水や排水により複雑な影響を受けています。しかしながら、低水路が単一であるため、それぞれの水利用に応じた水質になっていないなどの問題点があります。本事業では河道内に新たな低水路を設置。汚濁流入水を新低水路に流下させ、流水の適切な保全を図ります。

[保全水路 横断面図]



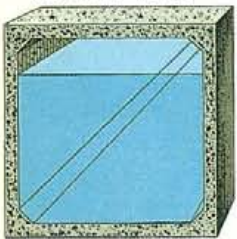
[流水保全水路ルート図]



石狩川上流における桜つつみモデル事業初認定
市町

- 旭川市 (平成二忠別川)
- 鷹栖町 (平成五オサラツベ川)
- 美瑛町 (平成六美瑛川)
- 東神楽町 (平成八忠別川)

流水保全水路



流水保全水路 諸元

施工期間/昭和63年度～
平成7年度(予定)
保全水路延長/4.7Km
保全水路断面/2.0m×2.0m～
1連(Q=3.0m³/sec)
サイホン一式/(1.2m×1.5m×
43.25m～1連)

震災に備えた川づくり

旧中の川改修工事における消火用取水施設(ピット)の建設

平成7年1月17日、阪神・淡路大震災から約2年が経過しましたが、札幌市ではこの震災を契機に「地域防災計画」を総合的に見直すこととし、札幌市地域防災計画・緊急対策(95(ポバイ計画))をスタートさせ、現在、河川も含めて検討を進めております。

一方、建設省は平成7年度の河川事業予算において、地震に伴う火災の延焼遮断、緊急避難路及び消火用水の確保等に資する施設の整備について配分重点化措置を行いました。

札幌市では、この施策を受け都市小河川改修事業旧中の川改修工事において、消火用取水施設(ピット)を設置したことから、その概要について紹介いたします。

旧中の川における消火用取水施設の設置

旧中の川は、平成2年度から都市小河川改修事業により改修工事を実施しており、また、潤いと憩いの水辺空間を創出するため環境整備も合わせて進めております。

消火用取水施設は、大地震の発生により水道管が分断し、消火栓が使用不能となった場合に、消防火利の確保を目的に建設したものであります。

旧中の川における消化ピットの建設においては①都市河川のため平常水量が少なく水深も浅く直接の取水が難しいこと②河道内の施設設置は、洪水流下で支障を与えないこと③旧中の川は親水河川として子供達の水遊び場の整備を行っており、河川利用上で安全なこと④取水施設は、当面河川管理施設として設置する(河川補助)等の検討を要し、これま

でに実例がないことから課題の多いスタートとなりました。

施設計画は、消防部局及び河川管理者の北海道との協議を踏まえ、消防としての施設利用を第一義に進めることで検討を進めており、その結果、取水施設は水槽構造で河床下に設置し(下図)、

河川管理通路に消防車が進入し、消防ホースで直接取水する方法によることとし、河川景観に配慮して2箇所の消火用取水施設を設置しました。なお、水槽容量は、消火に必要な水量40m³(1m³/mm×40mm)に対し、河川流水量も考慮し8m³の規模で設置しております。

消火用取水施設は平成8年3月に完成しましたが、消防火利としての機能について、消防局による実験が行われました。その結果、消防車の進入や施設へのアクセス、ホース接続もスムーズであり、水量も十分確保できることから、震災時の有効性が検証されました。

◎おわりに◎
本施設は、前例がないことから試行的な要素も含め進めてきたところでありますが、消防による検証結果が良好であったことから関係者一同安堵しているところであります。

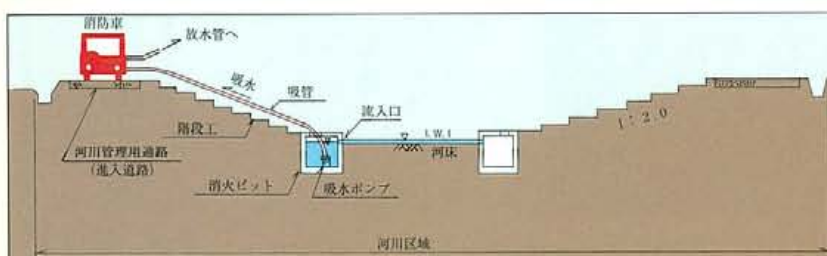
しかし、今後の課題として①冬期間の積雪による管理用通路の不通、消火水の凍結対策②水槽への土砂混入対策と管理体制の確立などの検討が必要となっております。最後に、消防局による実験の報道(図参照)に伴い、他都市からの問い合わせが多くあり震災に対する全国的な気運の高まりを感じたところであります。

本市においても、今後一層の震災対策河川整備を進める予定であります。

札幌市



- 設置箇所：二級河川旧中の川(手稲区新発寒1条3丁目付近)
- 取水施設の概要(図参照)：設置数/2箇所設置施設・鉄筋コンクリート製消火水槽・取水施設への階段設置
水槽容量：8m³(1.2×1.2×6.0m)消防火利は水深1m以上の深さが必要
- 設置額：約500万円(取水施設+階段)/1箇所



忠別ダムで定礎式を挙行

北海道開発局が石狩川水系忠別川に建設を進めている忠別ダムにおいて、昨年9月11日に、建設大臣（代理 林桂一河川局長）をはじめ、北海道開発庁長官（代理 清治真人水政課長）、地元国会議員の他、関係市町、工事関係者等を合せ220人余りが出席し、待望の定礎式が盛大に挙行されました。



定礎の儀は、神事で清められた礎石が木遣の唄と共に、忠別ダム建設事業所副長の先導で搬入



された後、引続き地元小学生の元気なかけ声とともにパワーストーンの搬入も行われ、旭川開発建設部長の力強い定礎宣言を受け、来賓の方々による鎮定、斎鏝、斎鍬の儀が執り行われました。さらに埋納の儀では参列者の見守る中ダンプトラックが放ら勢い良くコンクリートが放出されると、出席者全員の万歳三唱と花火の音がダムサイトに響き渡り、工事の安全と早期完成が祈願されました。これに引続き同会場において定礎式典が行われ、旭川開発建設部長の式辞、北海道開発局長の告辞、忠別ダム建設事業所長の工事報告、来賓の方々の祝辞、鏡割等の後、地元郷土芸能の羽衣太鼓が披露され、式典は滞りなく終了しました。

当ダムは、堤高86m、堤体積98万³m³の重力式コンクリートダムと、堤高78・5m、堤体積774万³m³のフィルダムから成る複合型で、洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用水、水道用水の補給、並びに発電を目的とした建設省直轄の多目的ダムです。今年度からは平成15年度の完成に向けて工事は最盛期を迎えることとなりましたが、完成後の治水、利水はもとより、地域の発展にも大きな役割を果たすものと各方面から期待されています。

トピックス

緑化担当者技術セミナー及びモデル植樹の実施

平成5年11月、砂川市で開催された「第2回石狩川サミット」において、石狩川流域48市長村長の総意により、「流域住民1人1本280万本植樹を目標として取り組む」を主な内容としたサミット宣言がうたわれました。そこでこの構想を推進するため平成6年度から、関係資料の収集、アンケート調査及び緑化基本計画の検討等を進めてきましたが、



本年度はさらに具体化を図るため、市町村緑化担当者及び地域の緑化リーダーによる「緑化技術セミナー」を開催しました。また緑化推進をPRするため、緑化に関心、理解のある地域住民の参加により、旭川市（上流）と砂川市（下流）において「モデル植樹」を実施しました。実施状況は次の通りです。



① 緑化技術セミナー

- ①平成8年10月30日
旭川市神楽岡公園緑の相談所及び東光町
- ②平成8年10月31日
砂川市役所大会議室及び砂川遊水地

② モデル植樹

- ①平成8年11月3日
砂川市砂川遊水地
- ②平成8年11月4日
旭川市東光町

平成8年度川からのまちづくりセミナー開催される。



石狩川流域48市町村の河川情報委員を対象とした川からのまちづくりセミナーは、平成8年10月24日砂川市において開催されました。当日は各市町村の河川情報委員を始め、石狩川・旭川両建設部及び北海道土木部の担当官等約80名の参加を得て行われました。まず、セミナーに先立ち砂川市のまちづくり事業として、砂川ハイウェイオアシスとオアシスパーク及び砂川遊水地を視察した後、砂川パークホテルにおいてセミナーを開始しました。始めに、中川砂川市長による「砂川市のまちづくりと砂川遊水地」、引き続き北海道開発庁清治水政課長の「川からのまちづくりと今後の動向」と題した講演の後「講師との自由懇談」が行われ講師と情報委員の間で活発な意見が交換されました。最後に北海学園大の山口教授から「水害と危機管理対策用資料作成」について解説等があり有意義のうちに終了しました。

石狩川振興財団の活動報告

(財)石狩川振興財団設立5周年及び「石狩川の碑」発刊記念行事開催される。



平成8年11月7日、札幌東急ホテルにおいて、当財団の設立5周年の記念式典と「石狩川の碑」の発刊披露が行われました。当財団は平成3年11月1日、現在の前身である「石狩川振興協会」として滝川市において発足。爾来5年になりますが、その後平成4年5月18日「財団法人石狩川振興財団」として許可を受け事務所を札幌に移し、河川や流域に係わる各種事業活動を展開してまいりました。

記念式典は北海道開発局、流域自治体はじめ各界から多数の来賓のご出席を戴いて開催され、引き続きフリーアナウンサーの大久保真弓さんの「川がはこぶもの」と題する記念講演が行われ盛会裡に終了いたしました。また、当日は記念事業の一環として開拓以来、先人が「母なる川」と、どのように関わってきたのか、その足跡を辿るため流域内にある各種の碑を集録した「石狩川の碑」の発刊披露も行われました。

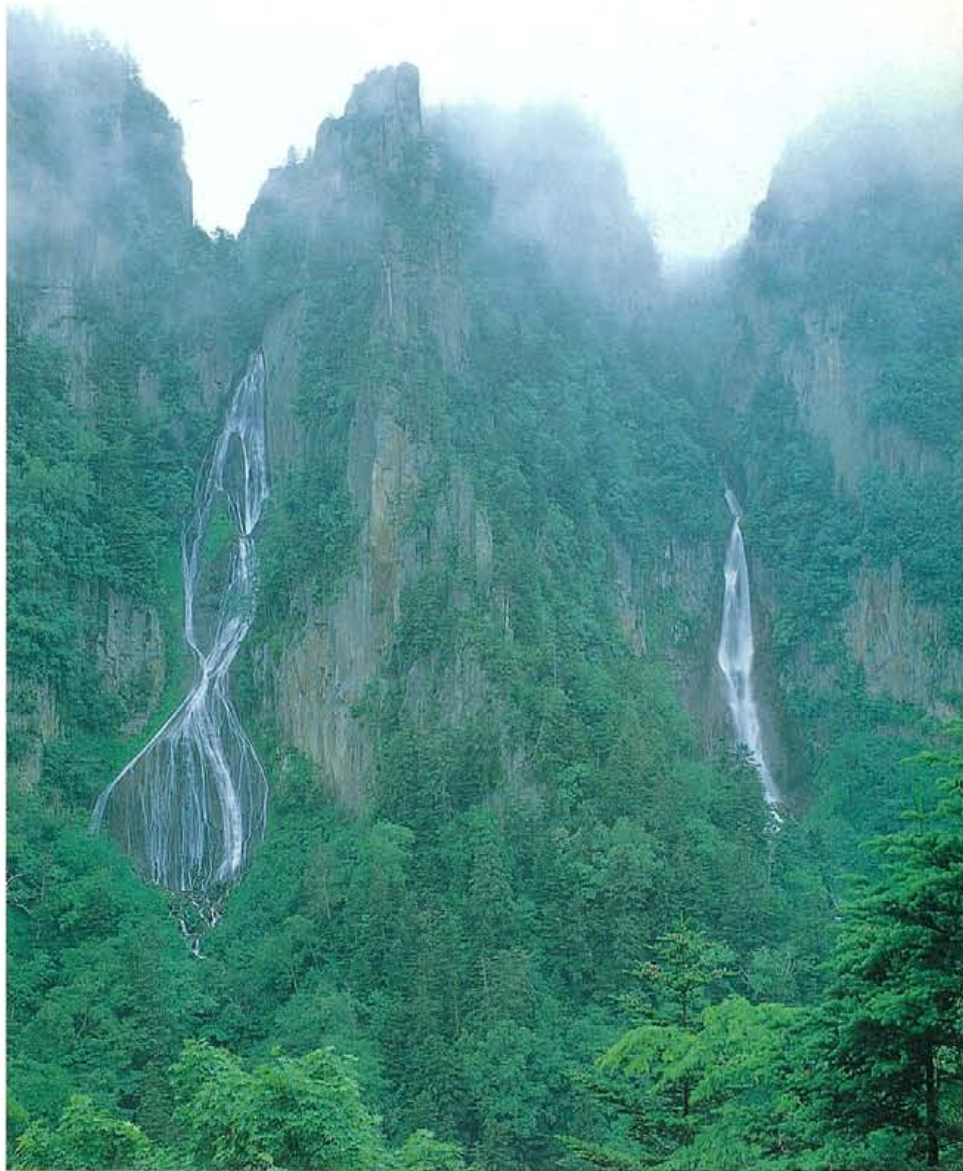


◎この冬は暖冬とはいえず2月中旬から降雪が続いたため、残雪も例年より多いようだ。春分の日を過ぎて陽射しが次第に強くなり、桜前線北上のニュースがちらほら聞こえてくると、こぼし、ミスバシヨウ、桜などの開花が待ち遠しくなる。明るい話題が乏しい昨今の世相の中で、自然の移り変わりを愛でながら、せめて気持ちだけでも明るくしていきたいものだ。

◎あまりにも標高差がある地形ゆえ悲惨な災害を受けている国があり、一方で地形勾配がほとんどないために水害常襲地となっている地域がある。そんな中で、今も昔も災害対策に懸命の努力を続けている人たちがいる。渡部翁の片方の夢実現の道のりもまだまだ遠いが、防災対策は百年の計のもと関係者の理解と強力を得ながら一歩一歩着実に進めることが重要だ。

◎当財団、お陰様で設立五周年の節目を通過、皆様からこれまで寄せられましたご厚情に感謝するとともに、さらなる充実・発展のため精進してまいる所存であります。今後いつそのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

編集後記



銀河・流星の滝

上川町

兩岸に高さ150mもの柱状棋理の断崖絶壁が20数kmにわたってそそり立つ層雲峡。荒々しい断崖から、対照的ながら寄り添うように落ちる二つの滝。銀河の滝は幾筋もの白糸が美しい曲線を描く静かなる雌滝。そして夜空の流星のように太い一本の線となって落ちる、力強い雄滝は流星の滝。歌人、与謝野晶子をはじめ、恋人や夫婦の例えとして二つの滝を表現する人は多い。

層雲峡には白蛇、綿糸、岩間、ライマンといった滝が次々に現れ、違った表情を見せる。かつて滝の川（ソー・ウン・ベツ）と呼ばれた所以である。